

新規事業採択時評価結果（平成18度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
 担当課長名：鈴木 克宗

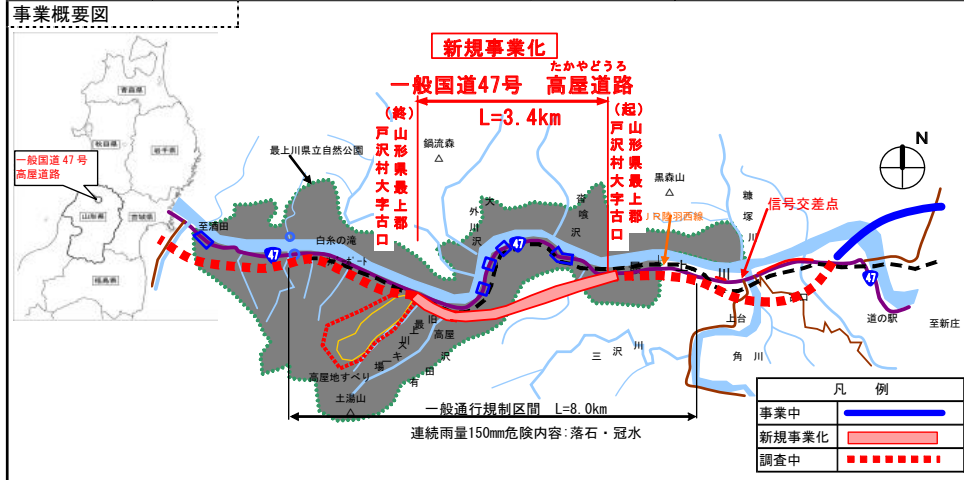
事業の概要

事業名	一般国道47号 高屋道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：山形県最上郡戸沢村大字古口 至：山形県最上郡戸沢村大字古口	延長	3.4km		

事業概要
 新庄酒田道路は山形県新庄市を起点とし、日本海沿岸の山形県唯一の重要港湾（酒田港）が位置する山形県酒田市を結ぶ延長約50kmの地域高規格道路である。
 そのうち、高屋道路は新庄酒田道路の一部を構成する延長3.4kmの一般国道の自動車専用道路である。

事業の目的、必要性
 高屋道路は、一般国道47号の異常気象等の自然誘発による一般通行規制区間(L=8.0km)に並行する路線であり、通行止めになった場合の代替路線の確保、酒田港への物流ルート確立や最上地方の地域の活性化に大きく寄与するものである。

全体事業費：132億円 計画交通量：10,800台/日



関係する地方公共団体等の意見
 関係する市町村および各団体から活発な要望を受けている（53回：～H17.11）
 ・H17.11.25 財務省・国土交通省本省要望（新庄酒田地域高規格道路建設促進既成同盟会 他；新庄市長）
 ・H17.7.15 「最上を拓く高規格道路」建設促進合同大会（新庄酒田地域高規格道路建設促進既成同盟会） 他

事業採択の前提条件
 費用対便益：便益が費用を上回っている
 手続の完了：H16.3月に整備区間指定の手続きが完了

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.5	総費用：115億円 （事業費：101億円 維持管理費：14億円）	総便益：284億円 （走行時間短縮便益：249億円 走行費用減少便益：29億円 交通事故減少便益：6億円）	基準年：平成17年
-------	-----	-----	--	--	-----------

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-
事故対策		○	山形県内平均死傷事故率の2倍以上が含まれている当該区間の事故の減少が見込まれる。 （現況：約70.2件/億台キロ） 【死傷事故率】約70.2件/億台キロ（現況）〔死傷事故率比（県内単路部平均比）=2.2〕 ※当該区間に並行する一般国道47号における最大死傷事故率 【事故率曲線】山形県内直轄国道区間における死傷事故率の中で、上位2割に含まれる。 【その他の特徴】・線形不良区間では重大事故に直結する正面衝突、追突が約4割と非常に高い割合を示している。また大型車を起因とする事故が多発（約5割）している。 ・上記区間における近年の死傷事故率は増加傾向がみられる。 （H10-13）63.2件/億台キロ（現況）70.2件/億台キロ
歩行空間		-	注目すべき影響はない。
社会全体への影響	住民生活	○	山形新幹線新庄駅へのアクセス向上（酒田市～新庄駅の所要時間68分 65分）
	地域経済	○	国際コンテナ航路の発着港湾である酒田港へのアクセス向上が見込まれる。 （酒田港～新庄市の所要時間74分 71分）
	災害	◎	・代替路線の確保 （災害による通行止め（5回（約56時間：H13～H17.12））時における代替路線機能を有する路線である。迂回率 約3倍（新庄市～酒田市/迂回路：国道112号）が解消される。） ・国道112号通行止めにおける唯一の代替路線である。 （H16.5.16～国道112号通行止め時、約7,300台/日の交通量が転換した。）
	環境	-	注目すべき影響はない。
事業実施環境	地域社会	○	アクセス向上による庄内生活圏と新庄生活圏の生活間交流の促進 （酒田市～新庄市の所要時間68分 65分） 主要な観光施設へのアクセス向上 （主要な観光地を有する最上川舟下り（約24万人/年）へのアクセス向上により観光需要の増加が見込まれる。）
	事業実施環境	-	注目すべき影響はない。

採択の理由

費用便益比が2.5と費用が便益を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 地域高規格道路新庄-酒田間のネットワークを形成するとともに、一般通行規制区間の解消を図り、線形不良・幅員狭小の連続により事故が多発する箇所の解消が図られる。また、地元自治体から事業促進の要望も非常に高い。
 以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。